

【飼料生産組織の概要】

- 上越稲WCS機械利用組合 平成20年設立。構成員：30名
- 合同会社 柿崎育苗 令和5年設立。構成員：6名

①飼料生産の概要

○主な飼料作物の収穫面積
稲WCS

上越稲WCS機械利用組合：24 ha
(主に清里地区での収穫作業を受託)
合同会社 柿崎育苗：17.6ha
(主に柿崎地区での収穫作業を受託)

○飼料提供先：畜産農家11戸
酪農農家：4戸
肉用牛農家：5戸
乳肉育成：2戸



②飼料生産の現状と今後の展望等

○飼料生産管理の現状

JAえちご上越が、約30戸の耕種農家のWCS用稲作付の意向（作付面積を把握し、各受託組織の作業エリアや面積の配分調整、飼料販売先（畜産農家）が必要とするロール数等の把握を行う。また、地域再生協議会への計画書の提出、畜産農家・耕種農家への機械利用料金や収穫受託料金、品代の請求・支払業務など、一連の管理業務を実施。

収穫機械は、上越稲WCS機械利用組合の組合員2名が所有する2台と組合所有の1台、合同会社柿崎育苗の1台を使用し、WCS用稲の生育状況を鑑みながら、JAえちご上越が作業日や機械の貸出などを調整する。

各受託組織が、圃場の場所とできたロール数を、JAえちご上越に報告。

↓ JAえちご上越が、各畜産農家が必要とするロール数を勘案したうえで、
↓ 畜産農家に、圃場とロール数を連絡。
畜産農家は、自らロールを取りに行く、または運搬業者を手配。

○今後の展望

畜産農家の需要を上回ったロールは、県内への販売を実施（令和6年度は約200ロール）。地域の畜産農家の減少も見込まれるため、稲WCSの販売先の拡大も検討している。

販売先を確保するために、販路や供給量の拡大を行うほか、関係機関（県指導員、飼料会社等）と連携しWCS用稲を用いた飼料設計の提案を行い、利用拡大に努めている。

③人材確保や機械の活用に関する取組や課題

機械の移動に調整を要して収穫作業の遅延（刈り遅れ）が発生しないよう、地区で作業範囲を分けている。

令和7年産の作業面積は、上越稲WCS機械利用組合が24 ha、柿崎育苗が17.6ha。

昨今のコスト高騰を踏まえ、組合員合意のもと令和7年度にオペレーター料金や品代の引き上げを行い、組織の持続性を図っている。

④取組内容

